

ellipse

[エリプス]

TOPICS

公開講演会「育メンと育児休業制度」

山田 正人 氏

楕円(ellipse)には焦点がふたつあります。男性中心の社会から、女性と男性がそれぞれに中心(焦点)となる社会を目指すという思いを込めて、誌名を「エリプス」と名づけました。



ワ・タ・シ

深津千鶴 FUKATSU, Chizu イラストレーター
東京生まれ。1988年、お茶の水女子大学文教育学部地理学科卒業。在学中に、『週刊朝日』誌上にて「山藤章二の似顔絵塾」特待生となる。広告代理店勤務を経て、1990年より作家活動を開始。書籍装画、CDジャケットなど多く手がける一方、エッセイ執筆、壁画制作などの活動を展開している。

REPORT

飛天プロジェクト 舞踊公演

企画展示「関東大震災とお茶の水女子大学
本館 -校舎焼失からの復興-」その2

共催講演会「制がん剤研究からアンチエイジ
ングコスメの開発へ」(室伏きみ子氏)

夢のつばさ♥プロジェクトニュース

INFORMATION

お茶の水女子大学イベント情報
事務局よりお知らせ



特定非営利活動法人
お茶の水学術事業会



公開講演会 「育メンと育児休業制度」

～個人と行政の視点から～

講師 山田 正人氏 横浜市副市長(当時)
 日時 2012年2月11日 14:00～16:10
 場所 お茶の水女子大学 本館 135室
 主催 『ジェンダー・格差センシティブな働き方と生活の調和：キャリア形成と家庭・地域・社会活動が可能な働き方の設計』(WORK-FAM)

お茶の水女子大学では、家族、生活、発達、ジェンダーに関する研究者が多数所属しているという特徴を生かし、2008年度に文部科学省委託事業として、近未来プロジェクトWORK-FAM(『ジェンダー・格差センシティブな働き方と生活の調和』)がスタートしました。(研究代表:永瀬伸子教授)。「労働・人事班」「家族班」「法・政策班」「発達心理班」「ロールモデル研究班」の5つの班に分かれ、学際的な枠組みの中で、



▲石井先生(左)と永瀬先生

多様なライフステージに対応した職場環境作りと家庭生活環境作りの分析モデルを考えています。

今回は、その中の「家族班」(リーダー:石井クンツ昌子教授)による、男性の家事参加、育児参加をテーマとした公開講演会の講演要旨を紹介します。

子育てをする男性=「育メン」は増えており、平成22年には「育児・介護休業法」が改正され、妻が専業主婦でも夫が育児休業を取得できるようになりました。しかし男性の育児休業取得率はわずか2%台にとどまっています(※)。

平成23年度にWORK-FAMが全国の26～38歳の女性を対象に行なった「ワーク・ライフ・バランスに関する調査」(回答数:917うち未婚:328、既婚:589)でも、出産後、正社員の女性が仕事の時間を短くするように調整する一方で、夫は残業時間が増えており、家事や育児に携わることが難しい現状がうかがわれました。

また、「今後子どもが生まれるとしたら、配偶者に育児休業を取ってほしいと思いますか」という質問に対して、有職者(正社員・パート)の女性の約4割、専業主婦の約5割が「取ってほしい」と回答しました。取得してほしい期間は「1ヶ月くらい」が半数を占め、「6ヶ月以上」はごくわずかでした(図1・2)。一方「夫に育児休業を取得してほしくない」理由としては、「経済的に不利になるから」「職場に迷惑をかけると思うから」が多く、約6割を占めています。

講師の山田氏は、2004年に1年間の育児休業を取得された経験にもとづき、男性の育児参加の意義や育児休業取得率を上げるための施策などについて話してくださいました。お子さん連れの育メンやこれから育メンになる方も多数参加し、有意義な機会となりました。

図1 妻の就業形態別「夫に育児休業を取得してほしいか」

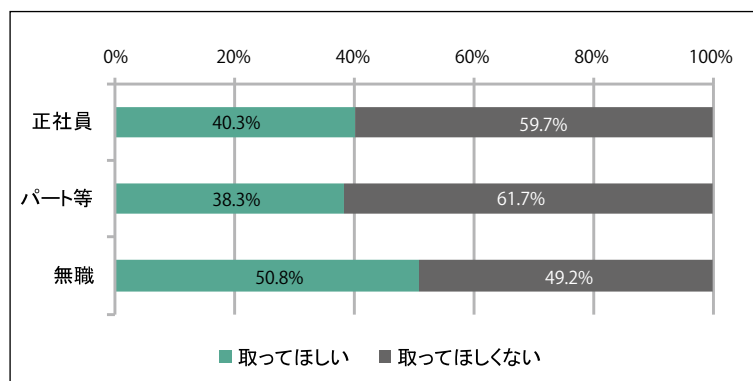
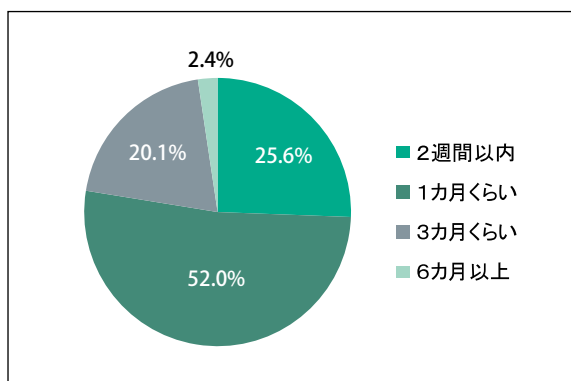


図2 夫に育児休業を取得してほしい期間



※注 厚生労働省が2012年4月26日に発表した2011年度雇用均等基本調査では、男性の育児休業取得率は2.63%となり、過去最高となった。

「育メンと育児休業制度

～個人と行政の視点から～

父親の育休という選択

「子どもが3人いて共稼ぎなら、今はそういう時代かもしれないね」「山田は生んでもないのに、どうして産休が取れるんだ?」「山田は出世をあきらめたのか?」…私が1年間の育児休業を取得すると決めたと、周りの人達からはいろいろなことを言われました。けれども当時私たち夫婦が思ったのは、自分たちは職業人として仕事に責任を持つと同時に、人の親として子どもを健全な社会人に育てる責任もあって、その両方を夫婦



で果たしていかなくてはいけないということでした。そのやり方は、夫婦それぞれ百組百様でしょうが、私たちの場合は、3番目の子は、私が育児休業を取ることにしたのです。

同じ年に同じ大学の同じ学部を卒業した私たち夫婦は、子どもが生まれるまでは仕事も家事も対等にやってきましたが、上の双子が生まれてからは、妻は家事・育児・仕事の3つの負担を負うことになり、私は「これではバランスが悪いな」と思いつつも、当時は仕事を聖域視していたので、仕事一辺倒の生活になってしまっていました。第三子の妊娠をきっかけに、そういった問題を夫婦でじっくり話し合い、出した結論でした。

子育ての大変さに気づく

実は、当時の私は、仕事に比べれば育児は非常に楽なものだと思っていました。しかし実際に始めてみると、育児は肉体的にも精神的にも、ものすごく大変でした。0歳児は起きている間はずっと抱っこをしていないと機嫌が悪いので、手が腱鞘炎でテレビのリモコンも持てないほど痛くなり、夜中に授乳をするため慢性的な睡眠不足にも悩まされました。また、当然ですが、赤ちゃんはしゃべることができないので、それまで機嫌よく笑っていたのに、急に吐き始めるというような想定外の惨事も起こるのです。言葉で伝えてくれない、話して理解してもらえない相手と二人だけで、ずっと一緒に過ごすというのは非常に辛いことでした。

さらに男性ならではの辛さもありました。熱を出した子どもを連れていった病院など、行く先々で好奇の目で見られるのです。また当時、上の双子を通わせていた保育園は、スタッフ 25

人中 24 人が女性だったので、その中に男の自分が一人で入っていくことに、かなり抵抗がありました。それから「公園デビュー」の難しさといいますが、公園でお母さん方が集まって話している輪の中に、私も入っていきたくったのですが、なかなかできませんでした。

そんな日々が続くうちに、育児を始めて 2～3 ヶ月目の頃、私は風邪をひいたのをきっかけに、風邪が治ってもベッドから出ていきたくないという「プチうつ」のような感じになってしまいました。1年間の育児休業の中で精神的に最も落ち込んだのが、この時期でした。

「プチうつ」からの脱却と育児の楽しさ

この状態が 2 週間ほど続いたのですが、そこから抜け出すきっかけになったのは、一つは職場の先輩・友人・後輩からの励ましでした。ちょうど「プチうつ」の時に、職場の親しい先輩から「最近どう?」というメールがポンと入り、とても嬉しかったのです。それをきっかけに職場の人たちと連絡をとるようになり、以前と変わらぬ人間関係を確認できたことが、大きな支えになりました。

もう一つ、私はそれまで 100 点満点をとるつもりで仕事をやっていたので、その延長で育児でも 100 点をとろうとしていたのだと気づきました。「自分は育児 0 年生なのだから、60 点でもいいじゃないか」と思えたところで、ぐっと楽になりました。

その後は、だんだんと子どもの反応が出てくることもあり、育児が楽しくなっていました。6 ヶ月目に入ったあたりからは、毎日が新しい発見と成長の連続で、非常に満足度の高い日々を過ごすことができました(図3)。

子育てはお母さんにしかできない?

当時は「子育てはお母さんにしかできない」ということがよく言われていました。それが本当なのか確かめたいという気持ち

図3 新しい発見と成長を感じる6つの点

新しい発見と成長を感じる6つの点

～パパの育児の満足度は高い～

- ① 子どもの成長が目に見える喜び
- ② 無償の愛に気づく(自分が育てられる)
- ③ 親子関係に良い影響(しつけ)
- ④ 地域社会とのつながり(子育て支援拠点への参加)
- ⑤ 職場が“特殊な社会”との自覚
- ⑥ 夫婦間のコミュニケーションの改善(家事・育児の価値を知る)

もあって、私は育児休業を取ったのですが、「男性でも子育ては全く問題ない」というのが私の結論です。唯一の例外は初乳ですが、これは産後休暇の間にあげることができますので、育児休業に関しては、腕力・体力という点ではむしろ男性の方が有利ではないかとも思います。結局、男性でも女性でも、育児が得意な人もいれば苦手な人もいて、それだけのことではないでしょうか。

山田家流の仕事と育児の両立のヒント

1年間の育児休業が終ったとき私が気づいたのは、「これからも家事・育児はずっとあるぞ」ということでした。それらを仕事と両立させていくうえでもっとも頼るべきは、やはり配偶者ではないかと思っています。

私たちの場合には、育児当番日というのを固定化させて、周囲に認識してもらっています。実は夫婦共働きでも、二人とも絶対に休めないということは、そうそうないのです。「夫はあてにならない」と言って夫の仕事を聖域化させると、妻は常に午後3時の保育所のお昼寝明けの発熱と重要な仕事の板ばさみになってしまいます。いざとなったら夫も熱を出した子どもを迎えに行けるという状態にしておけば、妻の緊張感は半分どころか5分の1ぐらいになるような気がします。

育児休業の経験が仕事にもたらしたもの

育児休業の経験は、その後の仕事にもプラスになっていると思います。

例えば仕事の能率が上がったということ。育児は想定外のことや次々と起こるわけで、その瞬間に何をどのようにさばっていくのかと、ずっと頭を使っていますので、職場に戻ったときには、随分仕事が楽だなというふうにも感じました。

それから、自分の仕事を客観視・相対視できたのも非常に良いことでした。これは行政で言えば、行政サービスを受け取る側の経験をすることですし、民間企業で言えば、カスタマー

の視点や消費者の視点に立つことだと思います。そういう視点が、今の自分の仕事に役立っています。

管理能力や組織へのロイヤリティも向上したと思います。

横浜市のイクメン政策

横浜市の林文字市長は、私を副市長として登用してくださいました。もともと横浜市は男女共同参画が進んでおり、市役所の男性の育児休業取得率も4%ぐらいで、恐らく日本一ではないかと思いますが、男性で育児休業をとった人を副市長に抜擢するという人事自体が、市長からのメッセージとして受け止められているようです。

私は、いくつかのイクメン施策に取り組んでいますが、その一つは育休適齢期の男性職員との「ランチミーティング」です。人事課の職員も同席し、お昼を食べながらいかに育児休業が有意義かということや延々と話すわけですが、結局のところ、人事上不利益を受けないというメッセージがあれば、かなり安心して育児休業を取得できるのではないかと思います。

また、男性に育児のノウハウを教える試みとして「横浜イクメンスクール」(全5回)も始めました。会社で働く男性も参加できるよう、平日の夜に実施しているのですが、最後の修了式では、「平日の夜にこういうふうに集まるのはこれきりにして、皆さん早くお家に帰ってください」とお話しています。

横浜市では、各区役所でも土日を中心に「パパ講座」を開講していますし、WEBサイト「ヨコハマダディ」(<http://hamadaddy.city.yokohama.lg.jp/>) (図4)を開設して、「パパ講座」や「父子おでかけスポット」などの情報を発信しています。さらに、「よこはまグッドバランス賞」を設け、子育て、介護支援などを通して男女がともに働きやすい環境づくりを進めている企業を認定・表彰しています。

最後に

性別役割分業を放っておくと少子化は進みます。夫婦で仕事も家事もともに楽しめる社会にするためには、現在の男性中心の働きすぎの社会を見直すことが必要ですが、まずは家庭の中の男女平等が大切ではないかと思います。

※山田正人氏の著書『経産省の山田課長補佐、ただいま育休中』(文春文庫/日本経済新聞社)もぜひ、ご一読ください。(編集協力: WORK-FAM <http://www.dc.ocha.ac.jp/gender/workfam/>)



図4 WEBサイト「ヨコハマダディ」





夢のつばさプロジェクト



講演会「夢のつばさ♥プロジェクト ～ 東日本大震災復興支援」

【日時】2012年3月17日 14:00～15:30

【場所】お茶の水女子大学本館 103

お茶の水女子大学附属中学校の同窓会「鏡影会」主催の講演会で、室伏きみ子氏（お茶の水女子大学大学院教授、お茶の水学術事業会理事）が「夢のつばさプロジェクト」設立の経緯やこれまでの活動、今後の予定などについて解説し、支援を呼びかけました。

2011年3月11日に発生した東日本大震災では、被災3県（宮城・岩手・福島）で1533名の子どもたちが親を失ったと言われています（2012年2月末現在）。将来、こうした子どもたちが、自分の夢をあきらめなくてはならないという状況が出てくるのではないかと考えたとき、私たちは「あきらめてほしくない」と強く思いました。そして、子どもたちが成人するまで見守り、子どもたちに「あなたは一人じゃない。何かのときには私たちが力になるから」と伝えていこうと考えたのです。

私たちの呼びかけに、さまざまな団体、たくさんの方が協力を申し出てくださり、2011年4月に「夢のつばさプロジェクト」を立ち上げることができました。

このプロジェクトが目指していることの1つは、子どもたち自身に将来の夢を実現するような力、すなわち本当に生きる力を身に付けてもらうということです。キャンプ活動を通して仲間を作り、自ら色々なことを学び、将来的には子どもたち自身が活動主体として、自分たちよりも小さな子どもたちや、今回の震災に限らずさまざまな状況で辛い立場にある子どもたちを助けていける組織作りができるよう、お手伝いをしたいと考えています。こうしたことが、ひいては現在の保護者のお気持ちを少し楽にしてさしあげることもつながるのではないかと思います。

また、この活動ではボランティアの学生が子ども達と直接関わっています。現在、お茶大だけではなく他大学からも総勢60名ほどが登録してくれていますが、実際にやってみると、子どもたちとの関わりを通して、学生たちも大きく成長するのです。今後、このことが、私たちのプロジェクトのもう1つの柱になるのではないかと考えています。

2012年度は、昨年度と同様に夏のキャンプと冬のクリスマスキャンプを実施するよう準備を進めています。さらに、交通事情によりこちらに来るのが難しい釜石市・大槌町の小学生～高校生を対象としたキャンプを5月に行います。現地の青年会議所との共催で宇宙航空研究開発機構（JAXA）の川口淳一郎

さんの講演会と映画「はやぶさ」の上映会を行ったり、産業技術総合開発機構（NEDO）にご協力いただいてソーラーカーの模型作りをしたりする予定です。（2012年5月19日・20日に実施）

また、これから子どもたちは進学や就職など、様々な問題を抱えるようになりますので、子どもたちと保護者の方たちからの相談を受け付ける窓口も作っていきたく考えています。

さらに、私たちが月に1度開催している「サイエンスカフェ」で、東日本大震災と原発事故の実態や適切に行動するための指針をテーマとして、日本を代表する研究者たちに話題提供をしていただきました。その内容を『サイエンスカフェによるこそ！科学と社会が会う場所—地震・津波・原発事故・放射線』（富山房、1,890円）という冊子にまとめ、この3月11日



に発行しました。そして100冊分が「夢のつばさプロジェクト」に寄附されました。

東日本大震災の後、様々な支援プロジェクトが立ち上げられましたが、その多くは1～2年の短期的なもので、「夢のつばさプロジェクト」のように長期的な支援を行っていこうとするものはほとんどないということです。私たちは子どもたちを末永く見守っていきたく思っていますので、皆さまから温かいご支援をいただきましたら幸いです。

※ご講演内容の一部を抜粋して紹介しました。「夢のつばさプロジェクト」の詳しい内容や活動報告については、HPをご覧ください。

(<http://www.npo-ochanomizu.org/tsubasa/index.html>)

協力：お茶の水女子大学附属中学校同窓会「鏡影会」

ご寄付のお願い

皆さまのご理解と温かいご支援を賜りたくよろしくお願い申し上げます。

個人1口：5千円 法人1口：10万円

なお、ご寄付頂けます際には、ご芳名、ご住所（連絡先）を下記までお知らせくださいませ。

<連絡先> 事務担当 滝澤公子 TEL & FAX : 03-5978-5362

Email : tsubasa@npo-ochanomizu.org

<振込先> 三井住友銀行 大塚支店（店番号 227）普通 1284200

名称：特定非営利活動法人お茶の水学術事業会理事長 平野由紀子



お茶の水女子大学 イベント情報

2012年6月以降に開催される各種イベントのお知らせです。詳細は、各主催者にお問い合わせください。

期日	イベント・講座名	参加費	備考
2012年6月20日(水) 15:00～16:30	公開講演会「リーダーシップ論 第6回」 講師：足立直樹氏(凸版印刷株式会社代表取締役会長) リーダーの資質を育成する事業の一環として、各界でリーダーシップを発揮している著名人を講師としてお招きする連続公開講演会です。	無料	【主催】お茶の水女子大学リーダーシップ養成教育研究センター 【会場】 徽音堂(お茶の水女子大学講堂) 【お問合せ・お申込み】 お茶の水女子大学リーダーシップ養成教育研究センター E-mail: info-leader@cc.ocha.ac.jp
2012年7月2日(月) 18:00～21:00	公開講座 「日米のワークライフバランス —ジェンダー格差センシティブな視点から— 【同時通訳付き】 米国から「家族ケア責任差別の法理」の提唱者であり、ジェンダー法政策理論の第一人者である JoanWilliams 氏、労働市場の非正規化の国際比較研究で著名な SusanHouseman 氏を招き、米国の状況を学ぶとともに、日本ではどのように仕事と家族形成の将来像を描けるのかについて、対話し考察します。	無料	【主催】「ジェンダー・格差センシティブな働き方と生活の調和」プロジェクト 【共催】 ジェンダー研究センター 【後援】 内閣府男女共同参画局 【お申込み】プロジェクト HP からお申込みください。 http://www.dc.ocha.ac.jp/gender/workfam/ 【お問合せ】 TEL: 03-5978-5547 E-mail: workfam@cc.ocha.ac.jp 【託児室】事前申し込み制。上記 HP からお申込みください。
2012年7月14日(土)、 15日(日)、16日(月・祝)	平成 24 年度お茶の水女子大学 学部オープンキャンパス 各学部の説明会、附属図書館・歴史資料館の見学、学生による相談コーナー、お茶大グッズの販売など ※スケジュールは、大学 HP (http://www.ocha.ac.jp/event/open-campus_2012.html) に掲載されますのでご確認のうえ、お出かけください。	無料	【お問合せ】 お茶の水女子大学 広報チーム TEL: 03-5978-5105 E-mail: info@cc.ocha.ac.jp ※事前のお申込みは不要です。
2012年7月18日(水) 15:00～16:45	お茶の水女子大学公開講演会 「共に生きる～地球のステージ～」 講師：桑山紀彦氏(NPO 法人「地球のステージ」代表理事) 「地球のステージ」とは、「紛争、災害、貧困の地の子どもたちに音楽と映像で近づこう」というコンサート形式のステージで、お子さんから大人の方まで幅広くご参加いただけます。	無料	【主催】お茶の水女子大学グローバル協力センター 【会場】お茶の水女子大学 徽音堂 【お問合せ・お申込み】 お茶の水女子大学グローバル協力センター E-mail: info-cwed@cc.ocha.ac.jp
2012年8月22日(水) 9:00 受付開始	「お茶の水女子大学附属学校園 探究力・活用力育成テーマ別研究中間報告会」 お茶の水女子大学と附属学校園の連携による探究力・活用力育成研究の中間成果報告会を行います。 【午前の部】 幼小接続期研究、学校での ICT 活用、表現活動、自主研究など、8つのテーマの研究報告会 【午後の部】 探究力・活用力をテーマにしたシンポジウム 講師：楠見孝先生(京都大学)、池田まさみ先生(十文字学園女子大学)	無料	【主催】学校教育研究部 【会場】主な会場は大学本館。受付は大学本館1階、正面入口 【お問合せ】学校教育研究部 TEL: 03-5978-2704 E-mail: info-gakko@ocha.ac.jp ※事前のお申込みは不要です。 ※詳細は学校教育研究部 HP http://www.cf.ocha.ac.jp/sesd/index.html
2012年6月1日(金)～ 9月29日(土)	第 20 回 附属図書館企画展示 「お茶大廻り江戸散歩」	無料	【主催】お茶の水女子大学附属図書館 【会場】附属図書館1階キャリアカフェ横 【詳細】附属図書館のHP「企画展示」をご覧ください。 http://www.lib.ocha.ac.jp/tenji/tenji_top.html 【お問合せ】E-mail: library@cc.ocha.ac.jp
2012年6月29日(金) 12:30～12:50 7月6日(金) 17:00～17:30	図書館ミニコンサート&七夕コンサート 演奏者：音楽表現(学)コース学生 ベヒシュタイン社製ピアノのコンサートです。	無料	【会場】附属図書館1階ラウンジ 【詳細】附属図書館のHP「コンサート情報」をご覧ください。 http://www.lib.ocha.ac.jp/concert.html 【連絡先】E-mail: library@cc.ocha.ac.jp ※お申込みは不要です。

期日	イベント・講座名	参加費	備考
2012年10月～ 2013年1月(後期)	公開講座「知の市場」 公開講座ネットワークである知の市場は2012年度に全国31拠点で81科目を開講します。お茶の水女子大学において、2012年度後期の開講する4科目はCT303(新規:サイエンスコミュニケーション実践論)、CT551(継続:知的財産権論)、CT562(新規:試案論)及びCT571(新規:企業法基礎論)です。(詳細は知の市場HP参照) 【受講応募申し込み】 ① 受講者登録: 知の市場HP・ http://www.chinoichiba.org ② 科目応募申込: お茶の水女子大学ライフワールド・ウオッチセンター(増田研究室)HP・ http://www.chinoichiba.org/lwwchp	無料	【主催】 お茶の水女子大学 ライフワールド・ウオッチセンター(増田研究室) 【会場】 お茶の水女子大学共通講義棟1号館 【募集】 後期の受講者募集は2012年7月1日から 【お問合せ】 知の市場お茶大事務局 E-mail: ocha-jim@chinoichiba.org 〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1 TEL: 03-5978-5018、FAX: 03-5978-5096



お茶の水女子大学歴史資料館 インフォメーション

歴史資料館では、本学の大学資料の収集・保存、調査・研究および展示公開を行うとともに、教育研究の様々な場面における支援を実施しています。

◆ 特別展示「広開土王碑拓本」

歴史資料館所蔵の「広開土王碑拓本」を特別公開します。「広開土王碑」: 別名「好太王碑」。高句麗の第19代の王である広開土王(好太王)の業績を称えた石碑で、4世紀末から5世紀初めの朝鮮半島の歴史・古代日朝関係史を知る上での貴重な史料。

【開催日】 2012年7月7日(土) 11:00～15:00

【会場】 生活科学部会議室(大学本館1階103室)

※ 大学本館1階の歴史資料館も特別公開します。

◆ 歴史資料館 特別公開

大学の歴史や宝物を紹介する常設展示、企画展示「関東大震災とお茶の水女子大学本館一校舎消失からの復興」、そして昨年度新しく収集した資料の一部をご覧いただくことができます。

【開催日】 学部オープンキャンパスと同時開催となります。

2012年7月14日(土)・

15日(日)・16日(月)

【会場】 お茶の水女子大学歴史資料館(大学本館1階)



◆ 平成24年度企画展示「東京と奈良 東西の女高師の交流展(仮題)」

東京女子高等師範学校と奈良女子高等師範学校の交流の歴史を、写真パネルや歴史資料で紹介します。

【一般公開日】 2012年10月9日(火)～19日(金)

12:30～16:30(予定)

【会場】 お茶の水女子大学歴史資料館(大学本館1階)

いずれも入場無料です。詳細は、歴史資料館のHPをご覧ください。http://archives.cf.ocha.ac.jp/guide_shiryokan.html
 (お問合せ) お茶の水女子大学図書・情報チーム情報基盤係 E-mail: shiryo@cc.ocha.ac.jp

今春「お茶の水女子大学 E-book サービス」がスタート! <http://www.lib.ocha.ac.jp/e-book/>

お茶の水女子大学の教職員や学生による書き下ろしの著作がE-book(電子書籍)として無料で読める「お茶の水女子大学 E-book サービス」がスタートしました。PDFのダウンロードも行えます。

既刊図書のご紹介

『近世日本の儒教思想—山崎闇斎学派を中心として』

高島元洋、大久保紀子、長野美香

日本朱子学を中心に近世日本の儒教思想について考察。中央の儒者だけではなく地方の儒者にも注目し、日本儒教の全体像をさぐる1冊。

『古今和歌六帖全注釈 第一帖』

古今和歌六帖輪読会(代表:平野由紀子)

平安朝文学に引用が多いにもかかわらず注釈のなかった歌集『古今和歌六帖』の初の全注釈。総歌数約4500首のすべての現代語訳、そのうち第一帖828首を公開。



冊子で入手したい場合は、オン・デマンドによる簡易製本版を「お茶の水学術事業会」から購入することもできます。

このサービスはお茶の水女子大学の研究者や学生による研究・教育成果を広く社会に還元するため、お茶の水女子大学とお茶の水学術事業会が連携して実施しています。ぜひご利用ください。

A-WiL 国際シンポジウム

「飛天プロジェクト舞踊公演」



2012年2月11日(土)、お茶の水女子大学本館306室において、A-WiL国際シンポジウム「未来を創造する大学 20歳のミッション-未来から創造する“今”-」が開催されました。

シンポジウムでは、海外の3大学からお招きした女性学長のキム・ソンウク氏(韓国・梨花女子大学学長)、リン・パスクェラ氏(米国・マウントホリヨーク大学学長)、パオラ・ベルナルディ氏(イタリア・コッレージョ・ヌーヴォ学長)と、お茶の水女子大学の羽入佐和子学長による、20歳前後の女子大学生が将来を考える上でのロールモデルとして、その人生の歩み、キャリア、求める未来の姿などについての講演があり、また各国の女性リーダー育成教育の取り組みについても情報・意見の交換がなされました。

A-WiL国際シンポジウム午後の部の冒頭、石黒節子お茶の水女子大学名誉教授考案の「飛天プロジェクト」を紹介する舞踊公演が行われました。

「飛天プロジェクト」は、石黒名誉教授の提案によりJAXA(宇宙航空研究開発機構)の文化・人文科学利用パイロットミッションとして選定された研究テーマのひとつです。2001年から準備を始め、2009年に宇宙飛行士の若田光一さんが国際宇宙ス

テーションの中でパフォーマンスを行いました。

今回、作品創りの過程を中心に若田光一さんのパフォーマンスの様子の映像などを交えた、石黒名誉教授による「飛天プロジェクト」についての解説がありました。また、お茶の水女子大学舞踊教育学コースの卒業生による「飛天をイメージした作品」(構成・振付・演出:石黒節子名誉教授)と学部生有志による「cosmos」(構成・振付・演出:猪崎弥生教授)という2つの舞踊作品が上演されました。自在に宙を舞うようなしなやかな身体表現の美しさを実際に目にし、さらに、無重力空間における人の動きや姿勢の新たな美しさを引き出した作品を創り上げていく様子などの大変興味深いお話を伺うことができました。お茶の水女子大学の多彩で息の長い研究活動のひとつを垣間見た貴重なひとときでした。

石黒名誉教授のお話の一部を紹介します。

約10年をかけて続けてきた「飛天プロジェクト」をこのほど国際宇宙ステーションで実験をすることができました。「飛天プロジェクト」は、敦煌や日本の飛鳥の飛天図を参考に振り付けし無重力環境で踊る、という試みです。



▲ 石黒節子名誉教授



▲ 石黒節子名誉教授による講演

◀ 卒業生による飛天をイメージした作品

仏教では「飛天」には仏をたたえ、音楽を奏し、花を降らせ、人々の思いを天に伝える役割があります。作品化するにあたり、敦煌の壁画、法隆寺金堂の壁画、国宝の玉虫厨子に描かれた飛天の像、聖徳太子座像などを参考にしました。敦煌の飛天が花をキャッチボールしている姿と、聖徳太子座像から座禅の姿をモチーフに決めました。カーブした姿勢とハンドジェスチャーも強調することにしました。

実際に無重力で踊れるのか、ということを確認するためにジェット機を上下させて約20秒間の無重力状態を作り、その中で舞踊教育学コースの大学院生らがポーズをとってみるという実験をしました。ポーズをとっているときは美しいのですが、その前後はジェットコースターとは比べものにならないほどの不安定な空間にいますので大変な実験でした。

男性である若田飛行士のコスチュームは、東寺の力強く美しい帝釈天の衣装を参考にデザインしてもらいました。

打ち上げ前の2008年、JAXAの施設でのリハーサルでは宇宙飛行士の方たちからどのような動きがしやすいかなどの貴重なご意見をいただくこともできて、楽しい時間となりました。

聖徳太子の座禅の姿勢は心身ともにとっても落ち着く姿勢なのですが、宇宙でもそうだったようです。



▲ 学部生有志による「cosmos」

お茶の水女子大学附属高校出身の山崎直子飛行士が宇宙に行ったときも、国際宇宙ステーションでの自由時間に飛天の舞を踊ってくださいました。

協力して下さった皆様に心より感謝しております。

取材協力:お茶の水女子大学リーダーシップ養成教育研究センター
文教育学部 芸術表現行動学科 舞踊教育学コース

お茶の水学術事業会からのお知らせ

講演等の講師派遣幹旋等事業

お茶の水学術事業会では、定款に定める「教育研究活動事業」の1つとして「講演等の講師派遣幹旋等事業」（講師派遣、セミナー・講演会の共催等）を行っています。ご応募の条件や方法につきましては、事務局までお気軽にお問合せください。平成23年度は以下の講演会をお手伝いさせていただきました。



【講師派遣】

桜蔭会静岡支部 講演会

テーマ:「此岸のはての紫の上」(『源氏物語』)

講師: 田中 恭子氏 開催日: 2011年6月26日

【共催講演会】

「制がん剤研究からアンチエイジングコスメの開発へ」

講師: 室伏 きみ子氏 開催日: 2011年12月3日

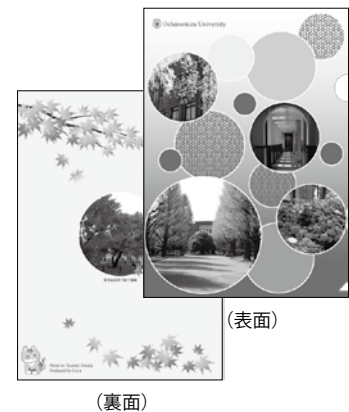
主催: お茶の水地理学会 共催: お茶の水学術事業会

※ P.11 をご覧ください。

新しいクリアファイルができました!!

大好評のお茶大クリアファイルに新しいデザインができました。抹茶色のベースに、「香淳皇后陛下御下賜楓」をはじめ、大塚常樹教授が撮影して下さった大学の美しい風景をちりばめました。

● 定価: 120円(税込)



雅 Grace・お茶大ゴルフ・お茶の水ブックレット・絵はがき・クリアファイルのご注文は下記まで。

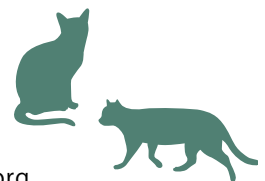
地方への発送も承っております。

〈お茶の水学術事業会事務局〉

Tel & Fax: 03-59766-1478

E-mail: info@npo-ochanomizu.org

HPの「ご注文フォーム」(「お茶大関連グッズ」タブ内)からも受け付けています。



◆ イベントのご案内や活動報告は、お茶の水学術事業会のHP (<http://www.npo-ochanomizu.org/>) に掲載しています。

お茶の水女子大学歴史資料館 企画展示のご紹介

「関東大震災とお茶の水女子大学本館

―校舎焼失からの復興― (2011年10月1日～10月14日)

その2 大塚の新校舎と本館の見どころ



「ellipse」第27号に引き続き、お茶の水女子大学歴史資料館で開催された企画展の様子をお伝えします。この展示は、2011年3月11日に発生した東日本大震災からの復興を願い開催されたもので、お茶の水女子大学に残る資料をもとに、関東大震災による校舎焼失から復興までの軌跡を辿りました。

今回は本館の見所もあわせてご紹介いたしますので、お茶の水女子大学にいらっしゃった折には、ぜひ、チェックしてみてください。

1. 新校地大塚へ

● 本館竣工

東京女子高等師範学校は、大正12(1923)年9月の関東大震災によって、当時お茶の水にあった校舎を焼失しましたが、昭和3(1928)年11月に文部省から大塚の地を交付され、翌年3月の寄宿舎の起工を皮切りに、次々に新校舎の建設が進められました。

その復興事業の中心であった本館は、校舎焼失の教訓から不燃構造の鉄筋コンクリート造で建設され、昭和6年1月に起工し、翌年8月に完成しました。建設期間は600日、動員した延人員は55,032人でした。

本館中央に位置する講堂は、細田剣堂教授により「徽音堂」と名づけられました。「徽音」とは「美しい音」すなわち「美德」を意味し、先人の美德をよく受け継ぎ德音を行なったという中国の故事に因んでいます。竣工時に東伏見宮妃周子より贈られた染筆「徽音堂」の額は、現在も講堂ステージ中央に掲げられています。

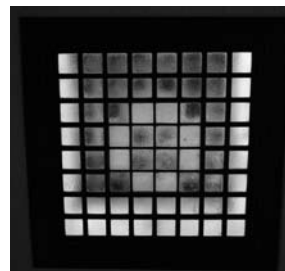
● 復興の喜び―落成祝賀会―

附属校園も含めて新校舎が全て整備され、大塚への移転が完了したのは昭和11(1936)年、関東大震災から13年後のことでした。

同年11月28日・29日には、落成式および落成記念祝賀会が挙行されました。大学に残るアルバム『東京女子高等師範学校落成祝賀式写真帖』には、その様子が収められています。新校舎は万国旗などで装飾され、上空には「祝落成」と書かれたアドバルーン。音楽会、手品、講演、大神楽などが催され、運動場の模擬店では、おでんや赤飯、団子が振舞われました。



スクラッチタイル
その名のとおり、串で引っかき傷模様をつけたタイル。手作りならではの味わいがある。



ステンドグラス(玄関ホール天井)
床と対応するように、正方形を基調とした幾何学模様になっている。ガラスのほとんどは竣工当時のまま。



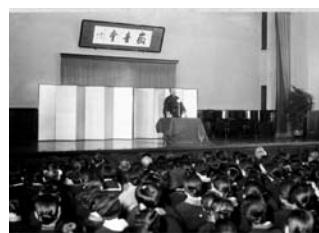
アーチ型化粧梁
アール・デコ様式。建物内を格調高い雰囲気に行っている。(撮影:大塚 常樹 教授)

出席者の楽しげな表情からは、復興の喜びがいかに大きかったかが伝わってきます。

※『東京女子高等師範学校落成祝賀式写真帖』の一部は、お茶の水女子大学デジタルアーカイブス (http://archives.cf.ocha.ac.jp/pic012_rakusei_shukuga.html) でご覧いただくことができます。



装飾を施された本館



落成祝賀会の際、徽音堂では一龍齋貞山の講演が催された。

2. 本館の見所

本館は、当時の流行であったアール・デコ様式を取り入れ、スクラッチタイル、布目タイルや富国石など最新の部材を使用して建設されました。

平成15(2003)年から平成18(2006)年には改修工事が行われましたが、建物としての機能更新を図るとともに竣工時の雰囲気を保つ工夫がされ、現在でも、本館の随所に、当時のデザインや部材を見ることができます。

平成20(2008)年3月、大学本館と講堂、附属幼稚園園舎及び表門は、国の登録有形文化財として登録され、後世に継承されていくことになりました。

資料提供：お茶の水女子大学

取材協力：お茶の水女子大学歴史資料館 志賀 祐紀 氏

共催講演会のご報告

「制がん剤研究から アンチエイジングコスメの開発へ」

講師：室伏 きみ子 氏（お茶の水女子大学 理学部 生物学科教授）



室伏きみ子教授

【日時】2011年12月3日（土）14:00~16:00

【場所】お茶の水女子大学 本館 306号室

【主催】お茶の水地理学会【共催】お茶の水学術事業会

【参加】77名

【講演要旨】

● はじめに

私は、12歳でお茶の水の門をくぐり、附属中学校、附属高等学校、大学、大学院修士課程の12年間を、理解のある先生方と楽しい友人たちとに囲まれて過ごしました。修士課程を終えた後、当時お茶の水には博士課程がなかったため、東京大学の博士課程に進み、学位を得てから、ニューヨーク市公衆衛生研究所等いくつかの研究機関での経験を経て、1983年に、お茶の水のキャンパスに戻って来ました。

ニューヨークへは8カ月の息子を連れて留学しましたので、ベビーシッターが帰った後で研究室に連れて行って、横に座らせて実験を続けたこともありました。研究室に子連れで通ったのは、私が初めてだったのですが、息子は研究室の仲間にも可愛がられて、心豊かに育ちました。お茶の水に戻ってからは、当時一人暮らしをしていた母に私たちの家に来て貰い、一緒に暮らし始めました。その後、母がずっと息子の面倒を見てくれ、私の研究生活を支えてくれました。母は昨年亡くなりましたが、母の力があってこそ、これまで仕事を続けてくることができたと、心から感謝しています。

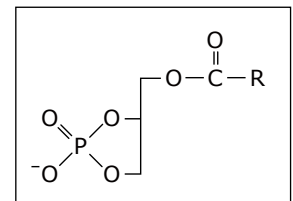
● 環状ホスファチジン酸 (cPA) の発見

お茶の水に戻ってきた私は、息子との時間も大切にしたいかったので、徹夜実験が要らないテーマを探し、低分子量で壊れにくい物質を対象とした研究を進めることにしました。それが今行っている脂質メディエーターの仕事につながっています。

最初は生物体内から制がん剤の候補となる物質を探すことを目的として、真性（真正）粘菌 (*Physarum polycephalum*) を使って研究を開始しました。そして1985年には、がん細胞の増殖を停止させる作用を持つ、低分子量の物質を発見することができ、この物質を「環状ホスファチジン酸 (cyclic phosphatidic acid, cPA)」と名付けました。完全な構造決定を

済ませ、論文発表するまでには、さらに7年の月日がかかりましたので、良く諦めずに続けたものと、我ながら少々あきれています。

その後の研究で、cPAの特異的な生理活性には、①細胞増殖の抑制、②がん細胞の浸潤・転移の抑制、③神経細胞の生存と分化の促進、④痛みの抑制、等があることが分かってきました。



cPAの構造

● 化粧品材料としての有効性

さらに、cPAには、ヒアルロン酸合成酵素の発現を誘導し、真皮繊維芽細胞や表皮角化細胞におけるヒアルロン酸合成を促進する効果があることも明らかになりました。またcPAは、表皮角化細胞における水チャネル・アクアポリンの産生を促進して水代謝を活性化することや、セラミド分解酵素を阻害してセラミドの蓄積を促すことも示されました。また、細胞外マトリクスの主成分であるコラーゲン中に真皮の繊維芽細胞を埋め込んで作成した人工真皮モデルを著しく収縮させました。

これらの興味深い働きから、cPAの化粧品材料としての有効性に期待が持たれ、お茶の水女子大学の教職員の協力のもと、『雅 Grace』が開発され、SANSHO株式会社から発売されました。

皮膚は、ヒトの臓器の中で最大のものであり、心と体の健康状態を外から見ることでできるバロメーターとも言われます。また、皮膚には多くの感覚器が存在し、それらを通して心の成長が促されることも報告されています。スキンシップによって、子どもたちの心が安らくなることは、良く知られたことです。健康で活力ある生活を送るためにも、ストレスから皮膚を守り、皮膚を活性化して、皮膚の健康を保つことが大切であることは、容易に理解できるのではないのでしょうか。cPAが多くの人々の Quality of Life を高めるために役立つことを願って、研究に励んでいます。

（お茶の水地理学会の報告より一部抜粋）

美しく見える肌ではなく、ほんとうに美しい肌へ。 雅 Grace —グレイス—、誕生。

ライフサイエンスから生まれたスキンケア

室伏きみ子(お茶の水女子大 教授)監修

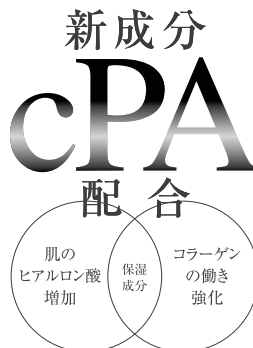
細胞生物学の最先端研究の中で室伏教授が発見した新成分 cPA (シーピーイー) は、あなたの体内のヒアルロン酸を増やして、本来あるべき良好な状態に導きます。雅 Grace は cPA を配合した世界初のスキンケアです。

売り上げの一部は、大学へ寄付されます。

雅 Grace
グレイス化粧水 150mL

雅 Grace グレイス乳液 100mL
雅 Grace グレイス美容液 30mL

※写真は、グレイス化粧水 150mL です。



なお、お茶の水学術事業会で、特別価格でお取り扱いをしております。詳しくは、本会事務局まで お問い合わせください。

E-mail : info@npo-ochanomizu.org TEL & FAX : 03-5976-1478

販売元: SANSHO株式会社 TEL 03-5203-0716 WEB <http://c-pa.jp/>

お茶の水ブックレット9

改訂版ができました!

「子どもは変わる・大人も変わる —児童虐待からの再生—

いま、父や母から小さな子どもたちが虐待を受けるという、息を呑むような事件が次々と報道されています。

「子どもを愛せる親」と「子どもを憎む親」を分つものは何でしょうか。

また、かつて虐待に苦しんだ子どもたちは、どうやって「生き直し」をしてきたのでしょうか。彼らが親になった時、わが子を傷つけてしまう「負の世代連鎖」からどのようにして解放されたのでしょうか。

長年にわたり、子どもが大人になる道筋を研究し、その途上を塞ぐ障害物への対応に深い関心を寄せてこられた内田伸子先生が、生涯発達心理学の観点から、これらの問題を解明する本書は、多くの方に共感をもってお読みいただいております。

2011年12月に発行された改訂版では、虐待がもたらす影響についての脳科学の知見も併せてご紹介しています。

お問合せ、お申込みは、お茶の水学術事業会 (TEL : 03-5976-1478、E-mail : info@npo-ochanomizu.org) まで。1冊 500円 (税込) + 送料 (実費)

※お茶の水女子大学生協、Amazonでもお求めいただけます。



お茶大ゴルフ 好評発売中!!



- ばにら・ちよこ・いちご各4枚入 600円 (税込)
- 地方発送も承っております (送料はお客様負担となります)

お茶の水ブックレット・お茶大ゴルフのご注文はお茶の水学術事業会事務局まで
E-mail : info@npo-ochanomizu.org TEL & FAX : 03-5976-1478

編集後記

「育メン」をテーマとした講演会、「雅 Grace」誕生のお話、お茶大の歴史を振り返る企画展、そして「宇宙」と「飛天」をテーマにした舞踊公演…。今回の「ellipse」は、大学で行われていることの多彩さを改めて感じていただけた内容になったのではないかと思います。この6月以降にもさまざまな公開イベントが予定されています。百聞は一見に如かず。ぜひ、足をお運びください。

広告募集

このページに広告を掲載しませんか? 次号は2012年10月に2500部発行予定です。会員の皆様はじめ全国の公共機関などに配布しています。広告料金は、1回につき20,000円。詳しくは下記までお問い合わせください。

事務局

OPEN 月~金 10:00 ~ 16:00
〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1 お茶の水女子大学 理学部3号館 204
TEL&FAX 03-5976-1478 E-mail : info@npo-ochanomizu.org
<http://www.npo-ochanomizu.org>

※会員の方は、お問合せの際、会員番号をお知らせください。会員番号は封筒の宛名ラベルに印字してあります。



◆事務局所在地
東京都文京区大塚2-1-1
お茶の水女子大学
理学部3号館204

◆交通機関

地下鉄 丸の内線
茗荷谷駅から徒歩7分

地下鉄 有楽町線
護国寺駅から徒歩8分

都バス
大塚2丁目バス停すぐ